

小見真観寺(行田市)



山門









本堂





県指定
彫刻

真観寺聖観音像

行田市大字小見一・二四
昭和二十九年三月四日指定

この像高一〇三センチメートル、檜材、寄
木造の聖観音像は、藤原時代末期の典型的な
美しさを持つ立像である。

本像は、元来三尊仏の中の脇侍として造立
されたものと思われるが、典雅に整った正統
な定朝様を伝えている。その洗練された彫技
から推すと中央仏師の手になるものと思われ
十二世紀前半から中葉頃の造立と考えられる
本像に続く作品として、南埼玉郡宮代町西
光院の本尊阿弥陀三尊があり、その脇侍像と
本像とは酷似している。

江戸時代、昭和三十三年の補修は受けてい
るものの、よくその整麗な姿を存っており、
市内でも数少ない藤原仏の一つといえよう。
行田市教育委員会



仁王門











仁王門ニ千社札ヲ
貼ル下 巖禁亦ス
真観寺 山主























観音堂

























この軒反りはどういふことか







こんな納まりになってしまっている









埼玉県文化財











鐘樓





一風変わった懸魚







またまた、さまざまな石造供養塔があった

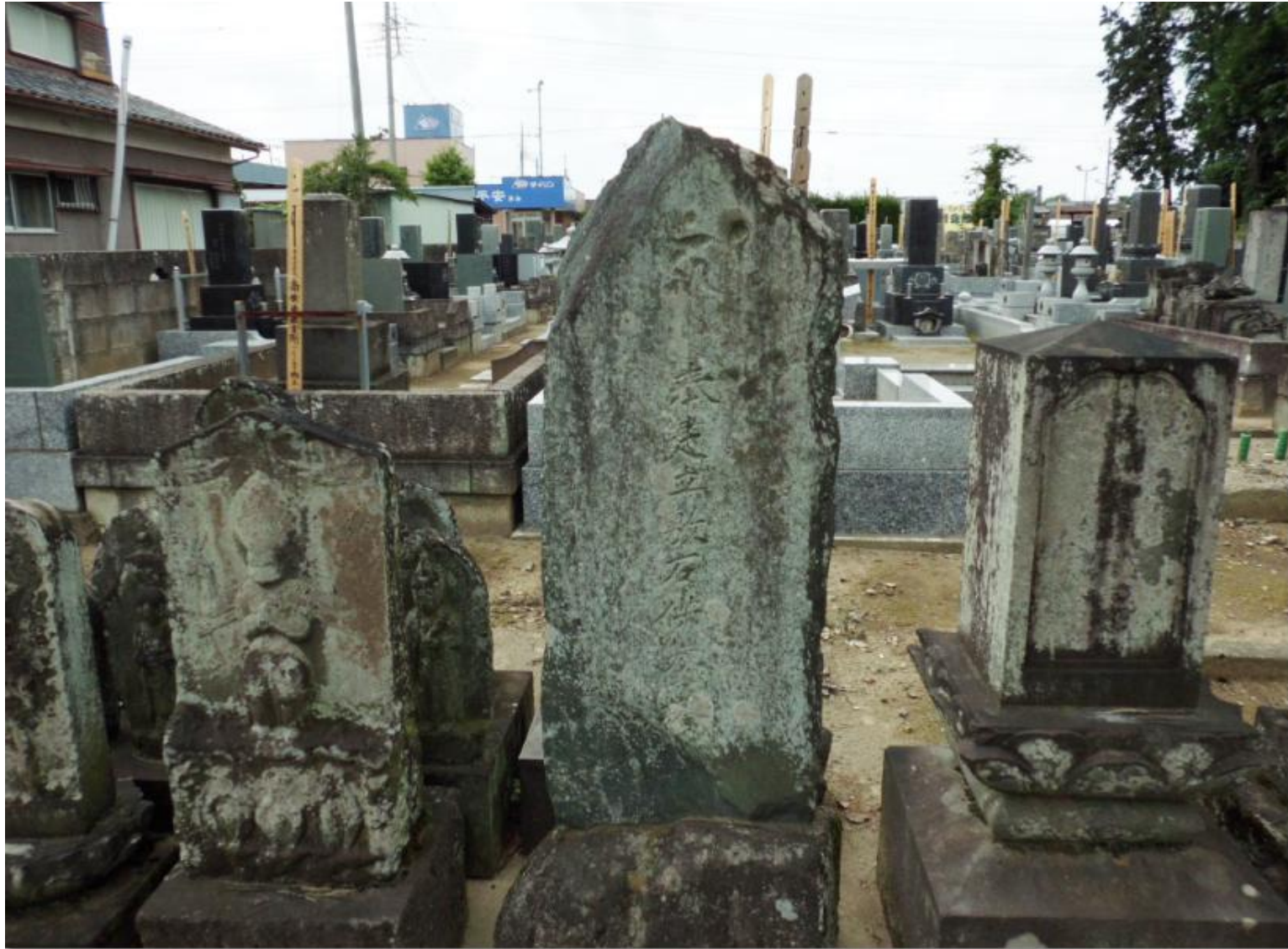














東照宮

花
く
よ
う
と
う

100



客殿



こういったデザインのものしか造れなくなっていくのであろうか

